

7 いじめのない社会へ —思いやりの心を育てよう—

これから小学校、中学校と進んでいく子どもをもつ親にとって、「いじめ問題」は、大きな不安の一つです。ついつい過敏になり、園での出来事や子どもと友だちとのささいないさかいまで気になってしまうこともあります。子どもは、親だけでなく友だちやいろいろな人の中で育っていきます。自分のことが大好き、そして、周りの人も大好き、と思える我が子に育てるために、わたしたち保護者は何ができるのか考えてみましょう。

幼稚園で、たつやくんから髪型のことでからかわれたみほさんは少し不機嫌。でも、お母さんたちのお迎えで近所の公園まで帰ってきた、みほさん、たつやくん、まさしくんは、いつものように3人で仲良く遊びはじめました。お母さんたちもいつものように母親同士の話に花が咲いています。

（たつや）「つぎは、ブランコしよう。」

3人は、ブランコへかけ出しました。

公園にひとつだけあるブランコには、みほさんが一番乗り、早速ブランコにこしかけてこぎはじめました。

（まさし）「つぎは、ぼくにかわってよ。」

（たつや）「だめだよ、ぼくが先にならんだんだよ。」

（みほ）「まだ乗ったばかりだからダメ。」

気持ちよくブランコをこぎ始めたみほさんも、2人がけんかをはじめそうなのでかわってあげることにしました。

（みほ）「じゃあ、まさしくんにかわってあげる。」

ところが先にならんでいるたつやくんは納得できません。3人もみ合いになってころび、みほさんは泣き出してしまいました。

様子を見ていたお母さんたちがあわててかけよりました。そして、それぞれに「ごめんなさいは。」と我が子に言いました。

3人は、少し不満げな顔で「ごめんなさい。」を言って、家へ帰りました・・・。



参考：栃木県親学習プログラムアレンジ版（P9）

3人は、少し悲しい思いをしましたが、こういう出来事を通して子どもは成長していきます。「ごめん」のあとでもまだ少し不満そうな3人の子に、あなたなら家に帰った後どんな声かけをしますか。だれかの親になったつもりで書いてみましょう。

の
親

- 1 子どもの、友だちとのトラブルや兄弟げんかに、うまく対応できたことや、反対にうまく対応ができずに困ったことなどがあれば書きましょう。

- 2 話し合いの中で気づいたこと、参考になったことを書きましょう。

POINT

子ども同士のけんかやトラブルは、子どもの思いやりの心を育てるチャンスです。じっくりと子どもの話に耳を傾け、その思いに共感することや、相手の気持ちを理解しようとする姿を認めていくことは、子どもの自己肯定感につながっていきます。「ごめんなさい」はゴールではありません。ごめんなさいを言う経験を通して、子どもがしっかりと成長できるような声かけに心がけましょう。いじめのない環境を子どもたちに与えるには、私たち親の力、毎日の行動が重要です。